

Hem21 NEWS

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

令和2年(2020) 11月

Vol.
84

CONTENTS

- ① 研究員レポート
- ②～③ 情報ひろば
- ④ 貝原俊民
美しい兵庫づくり賞
- ④～⑤ HAT神戸掲示板
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター
MiRAi

広域経済圏活性化による経済成長戦略

研究戦略センター 研究調査部 主任研究員
吐合 大祐



1. はじめに

私たち、(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構研究戦略センター研究調査部では、兵庫県経済の縮小傾向や、それをもたらす人口減少や東京一極集中を是正するために、平成30年度に「広域経済圏活性化による経済成長戦略」研究会(政策研究プロジェクトリーダー:加藤恵正(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科・教授))を発足させました。

本研究会には、「全体会」のほかに「データ分析分科会」と「大阪湾ベイエリア分科会」の2つの分科会を設置し、運営しています。本研究会の設立目的と検討課題については過去のニュースレター(vol.80:2020年3月発行)で既に説明しましたので、今回は、取り上げた2つの分科会のこれまでの活動内容と今後の研究方針について紹介したいと思います。

2. 分科会活動を中心とした研究会運営

繰り返しになりますが、本研究会の目的は、人口減少や少子高齢化、東京一極集中など様々な課題を克服し、「ひょうご経済」を活性化させるための方策について調査を進め、新たなアクションプランを提示することです。昨年度から、「データ分析分科会」「大阪湾ベイエリア分科会」をそれぞれ立ち上げ、調査研究を進めています。

まず「データ分析分科会」では、関西圏域内の「ヒト」「モノ」「カネ」の動きについて定量的に把握する研究を進めています。具体的には、経済学者が中心となって、国勢調査や産業連関表※1、GIS※2などを活用し、兵庫県をはじめ関西広域経済圏の経済的な特徴を定量的に明らかにし、さらにその地域でみられる特徴を規定する要因について統計分析を用いて検討

しています。文字情報を分析する「テキストマイニング」や「ビッグデータ」を使った分析など、洗練された新しい分析手法を積極的に活用し、兵庫県・関西経済の課題について議論していきます。

「大阪湾ベイエリア分科会」では、1990年代に提唱された「大阪湾ベイエリア構想」をベースに、現代にふさわしい都市開発のあり方について議論を進めています。ここでは、地域経済や財政学などの有識者に加え、ベイエリアの自治体職員も交えて、関西圏での都市開発やインフラ整備を伴う経済発展に焦点をあて、経済活性化のために必要となる政策を講じることを目指しています。具体的には、知識社会、ポスト工業化社会での新たな都市整備のあり方を踏まえて、大阪湾ベイエリア地域における経済活性化政策の企画・立案や各種事業の推進手法の検討、都市開発による経済的効果など様々な観点から分析を進めていきます。そしてそれらの分析を基に、「全体会」において関西地域の経済発展に有効となる政策を提案していきます。

本研究会では、以上2つの分科会での研究を基に、地域と国全体の成長につながる産官学が連携した政策モデルを検討・提案し、震災以降低迷している兵庫経済を復活への道筋につないでいきたいと考えています。

3. これまでの活動実績と今後の活動方針

この研究会は、平成30年度から令和3年度までの4年間にわたって調査・分析を進める予定です。これまでの研究成果は、『21世紀ひょうご』第27巻の「広域経済圏の活性化戦略」でご覧いただけます。今後研究会では、現在のコロナ禍が地域経済に与える影響等も踏まえて調査研究を進めていく予定です。

※1 産業連関表とは、一定期間(年など)において、それぞれ産業部門間・産業部門と家計で財やサービスがどのように生産・販売・取引されているのかを行列を用いてまとめた表のことである。産業連関表を用いることで、わが国の経済構造や経済波及効果について分析することが可能となる。

※2 地理情報システム(Geographic Information System)の略称。

こころのケアセンター

令和2年度第2期「こころのケア」研修の受講生募集

「こころのケア」に携わる保健・医療・福祉・教育等の分野で活動されている方を対象に、各種課題への対処法等について学ぶ「こころのケア」研修を実施しています。

来年1月から2月にかけて実施する研修の受講生を次のとおり募集しています。ぜひご参加ください。

●研修概要

コース名	期間	定員	対象	受講料 (資料代等)
①消防職員のための惨事 ストレスの理解と予防	1月13日(水) 14日(木) (2日間)	35名	消防職員	3,600円
②発達障害とトラウマ	1月28日(木)	35名	こども家庭センター(児童相談所)職員、福祉事務所職員等児童虐待 関係職員、保健所職員、教職員、スクールカウンセラー、保育職員等	2,500円
③子ども達のいじめのケア －加害と被害の連鎖－	2月 4日(木)	35名	教職員、スクールカウンセラー、教育委員会職員、こども家庭センター (児童相談所)職員、いじめ相談窓口の相談員、保育職員、児童福祉施 設職員、司法関係職員	2,500円
④対人支援職のための セルフケア	2月25日(木) 26日(金) (2日間)	35名	保健・医療・福祉関係の対人支援業務従事者(保健師、ケースワ ーカー、各種相談員、福祉施設指導員等)、教職員、スクールカウンセ ラー、保育職員等	3,600円

- 場所＝兵庫県こころのケアセンター(阪神「春日野道」駅から南へ徒歩約8分)
- 申し込み方法＝受講申込書(※)に必要事項を記入の上、郵送、FAX、Eメールのいずれかで下記までお送りください。各研修開始
日の1カ月前(前月の同じ日)の17時を期限として、申し込み多数の場合は、初めての受講の方を優先の上、抽選で
決定します。※当センターホームページからダウンロードできます
- 申し込み・問い合わせ＝兵庫県こころのケアセンター 研修情報課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目3-2 TEL 078-200-3010 FAX 078-200-3017
Eメール kensyu@j-hits.org http://www.j-hits.org/

研究戦略センター

21世紀文明シンポジウム

「東日本大震災から10年～復興の教訓と未来への展望」の開催(オンライン)

ひょうご震災記念 21世紀研究機構は、大規模災害が多発する日本列島にあって、事前の備えや減災・復興に関する研究成果を広く発信し、防災意識を高め、安全・安心な減災社会の実現を目指すため、東日本大震災の被災地で地震・津波等に関する自然災害科学研究を推進する「東北大学災害科学国際研究所」、戦前戦後を通じて防災報道を重視してきた「朝日新聞社」と平成 28 年 6 月に三者協定を締結し、共同でシンポジウムを開催してきました。

その第 5 回目となる今回は、東日本大震災から 10 年を迎えるのを機に、東北地方の報道機関「河北新報社」の参画のもと、復興はどこまで成し遂げられたのか、残された課題にどのように取り組むべきか、さらには東日本大震災の経験や教訓を次なる巨大災害への備えや復興にどのように生かすべきか、などについて議論します。

当シンポジウムはオンライン開催とし、YouTube でライブ配信します。ぜひご視聴ください。

- 日時＝令和3年1月21日(木)13時～17時
- 会場＝オンライン開催(YouTubeでライブ配信)
- 参加＝無料
- 主催＝機構、東北大学災害科学国際研究所、朝日新聞社、河北新報社
- 後援＝内閣府政策統括官(防災担当)、復興庁、総務省消防庁、岩手県、宮城県、福島県、仙台市、兵庫県、関西広域連合、KHB東日本放送
- 内容
 - 基調講演Ⅰ「国土の復旧から暮らしの再建へー政策の転換とその成果」
講師 おかもと まさかつ 岡本 全勝(復興庁顧問/元復興庁事務次官)
 - 基調講演Ⅱ「『災後』10年に見る『復興』日本-東日本大震災とは?」
講師 みくりや たかし 御厨 貴(機構研究戦略センター長/東京大学名誉教授)
 - パネルディスカッション
「東日本大震災の教訓と未来への展望
～あるべき復興社会像の実現に向けて」

コーディネーター ^{いたばし けいこ} 板橋 恵子(エフエム仙台
防災・減災プロデューサー)

パネリスト ^{とば ふとし} 戸羽 太(岩手県陸前高田市市長)

^{まり えりざべす} マリ・エリザベス(東北大学災害科学国際研究所准教授)

^{みたらい たまこ} 御手洗 瑞子(株式会社気仙沼ニッティング代表取締役)

^{いしはし ひであき} 石橋 英昭(朝日新聞社仙台総局編集委員)

○総括 ^{い お き べ まこと} 五百旗頭 真(機構理事長／兵庫県立大学理事長)

^{いまむら ふみひこ} 今村 文彦(東北大学災害科学国際研究所長・教授)

^{たんの あやこ} 丹野 綾子(河北新報社防災・教育室記者)

●申し込み方法

令和3年1月12日(火)までに機構ホームページからお申し込みください。
<https://www.hemri21.jp/>
※申込者には、開催前に視聴方法・URL等を事務局よりご連絡します

●問い合わせ

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 研究戦略センター
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2
人と防災未来センター東館6階
TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122
E-mail gakujutsu@dri.ne.jp

兵庫自治学会事業のご案内

① 研究発表大会

日頃の研究成果の発表の場として、研究発表大会を開催します。今回は新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、オンラインで開催します。テーマは「AI等先進技術を活用した行政サービスの向上に向けて」です。

午前の全体会では、兵庫県立大学社会情報科学部准教授の笹嶋宗彦氏をコーディネーターに、自治体におけるAI等先進技術の活用現状や課題、今後の方向について、県内自治体関係者によるパネルディスカッションを開催します。

また、午後の分科会では、18名(グループ)が4分科会に分かれて研究成果の発表を行います。

当日は、兵庫自治学会員に限らず、どなたでも Web でご視聴いただけます。ぜひ学会ホームページ(<http://hapsa.net/>)よりお申し込みください。

- 日時=12月13日(日)10時20分～17時
- 方法=Zoomによるオンライン会議を利用してパネルディスカッションおよび研究発表を行い、視聴者にライブ配信。

●プログラム

(1)全体会(10時20分～12時)

講演とパネルディスカッション

(講師・コーディネーター)

兵庫県立大学社会情報科学部准教授 笹嶋 宗彦

(パネラー)神戸市企画調整局情報化戦略部長 森 浩三

伊丹市総務部総務室情報管理課長 大田 幸正

加古川市企画部情報政策課長 藤原 基裕

(2)分科会(13時30分～17時)

会員を中心とする18名(グループ)の方々が、それぞれのテーマごとに日頃の研究成果を発表し、質疑・意見交換を行います。

②グループ研究応援事業

会員が過半数以上で構成される5名以上のグループが、自主的に行う県、市や地域の行政課題に関する研究活動(月1回程度の研究会や視察、調査等を継続的に行う活動)を支援します。1グループ10万円以内の助成金の支給や学識者派遣のコーディネートを行います。

③コラボレーション・プロジェクト事業

県・市町職員、NPO、団体、企業、地域などさまざまな人々

とコラボレーション(協働)による研究・実践とネットワークづくりのために、会員の自主的な企画・開催によるセミナー等を原則として10万円を限度に支援します。

④兵庫自治学会セミナー

AI等先進技術を活用した行政サービスをテーマに、来年2～3月頃に開催予定です。

今後、新型コロナウイルス感染症等の動向により開催形式を検討します。

兵庫自治学会とは、県政および県内市町行政の振興と地域の発展のために、行政や地域に関するさまざまな課題について研究し、課題解決のための政策形成能力の向上と、組織や職種を超えた幅広いネットワークづくりを目指している団体です。自らの視野を広げるため、一歩踏み出してチャレンジしてみませんか？

■会員になるには

年会費 2,000 円。次のいずれかに該当する方ならどなたでもご入会いただけます。兵庫県職員、県内市町職員、県内に在住または在勤の学識者・NPO 職員・個人(会員数 約 430 人)。

○会員の皆さまには、上記の支援事業や全米公共・行政学会への派遣支援、学会誌、会報の送付を行っています。

※当学会では、月1回程度会員でご希望の皆さまにメールマガジンを配信しています。所属の異動やメールアドレスが変更になった方は、お知らせください

●申し込み・問い合わせ

兵庫自治学会事務局

((公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 研究戦略センター内)
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

人と防災未来センター東館6階

TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122

Eメール gakujutsu@dri.ne.jp

URL <http://hapsa.net/>(←入会フォームはこちら)

「第5回 貝原俊民美しい兵庫づくり賞」の受賞者が下記のとおり決定しました

一般財団法人地域政策研究会は、前兵庫県知事 故貝原俊民氏(同研究会前理事長)が生前志した「美しい兵庫づくり」に寄与する有意義な活動を行い、今後一層の活躍が期待される個人や団体を対象に「貝原俊民美しい兵庫づくり賞(貝原賞)」を平成28年7月に創設しました。

本年度第5回の貝原賞には、団体15件、個人7件の応募や推薦があり、選考を行った結果、次のとおり受賞者が決まりました。

当機構では、候補者の募集や取りまとめ等の業務を同研究会から受託しています。

【表彰受賞者】

(2団体)・認定NPO法人

女性と子ども支援センター

ウィメンズネット・こうべ

・兵庫県災害医療センター

(1個人)

・鈴木 克哉

(NPO法人 里地里山問題研究所代表理事)

HAT神戸 掲示板

JICA関西

世界を知って、考えて、行動しよう!

JICA関西訪問プログラム(予約制)

JICAでは、日本政府が行う開発途上国における国際協力事業で培った知見・経験・人材を活用し「国際協力への理解と参加促進」「未来の地球を担う人材育成」を目的に開発教育支援事業を実施しています。自分で何ができるのかを考え、自ら行動できるグローバル人材の育成の一助として、さまざまなプログラムをご用意しています。是非、ご活用ください。

■プログラム例 ※ご要望に合わせて組み合わせられます

1. JICA事業概要説明(30分)

JICAとは何? JICA関西はどんなことをしているの? どんな仕組みで仕事をしているの? など、皆さんの知りたいことに答えます。

2. 活動体験談(60分)

JICAボランティア経験者や職員から、開発途上国での生活や活動の実際など、実体験に基づいた話を聞くことができます。

3. 施設見学(30分)

広報展示室など施設の見学。12月からはBOSAIについての展示をご覧ください。

■当面の間、1日1組、人数限定で実施(事前予約制)

■定休日=年中無休(年末年始を除く)

◎問い合わせ

JICA 関西(独立行政法人国際協力機構関西センター)
開発教育支援事業担当

TEL 078-261-0384(直通) FAX 078-261-0357

Eメール jicaksic-kaihatsu@jica.go.jp

その他、詳細はJICA 関西ホームページをチェック!

→ <http://www.jica.go.jp/kansai/>



プログラム詳細



活動体験談の様子



昨年の展示の様子

情報誌やwebサイト、ロゴ制作など、
広報戦略・ブランディングの
ご相談を承ります

IDÉE INC.

株式会社 イディー
〒650-0033
兵庫県神戸市中央区江戸町85-1
ベイ・ウイング神戸ビル10F
Tel. 078-331-5255 Fax 078-331-7800
E-mail info@idee-kobe.com

イディー 神戸 検索

コミュニティ型ワークスペース
「ON PAPER」はじめました!



ON PAPER

<https://onpaper.jp>

ONPAPER 検索

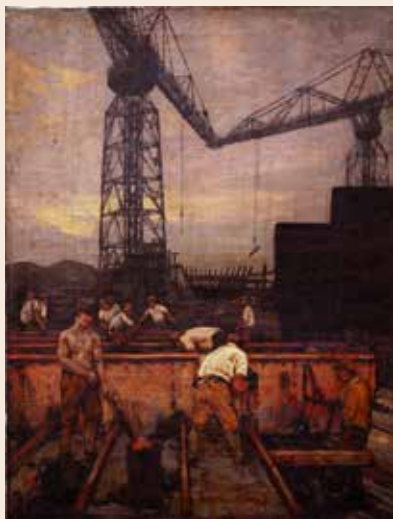
兵庫県立美術館

2020年コレクション展Ⅱ

小企画『吉田博 播磨造船所 絵画群』

特集展示『視覚遊戯—美術と目の楽しいカンケイ』

兵庫県立美術館では、前身である兵庫県立近代美術館（1970年開館）から継続的に作品収集を続け、これまでに収集された作品数は10,000点以上に上ります。本年度第Ⅱ期のコレクション展は小企画と特集展示を開催します。小企画は、アジア・太平洋戦争中に相生市にある播磨造船所とその近辺で建造作業の様子を描いた吉田博の創作活動に焦点を当てます。特集展示は、美術作品を鑑賞する際の



JMUアムテック（兵庫県立美術館寄託）

目の働きに着目します。その他、当館の多彩なコレクションを紹介します。

■会 期＝2020年10月10日（土）～12月27日（日）

■観覧料金＝一般500円、大学生400円、70歳以上250円、高校生以下無料

◎休館日＝月曜日

※ただし11月23日（月・祝）開館、11月24日（火）休館

◎開館時間＝10時～18時 ※入場は閉館の30分前まで



白髪一雄《天間星入雲龍》1962年

日本赤十字社 兵庫県支部

12月1日から「NHK海外たすけあい」キャンペーンが始まります！

日本赤十字社では、12月1日～12月25日まで「NHK海外たすけあい」キャンペーンを実施します。世界各地で紛争や自然災害、飢餓、病気などで命の危機に直面している人々を救うため、日赤が毎年NHKと共同で実施しているキャンペーンです。



第38回目となる今回は、「国境を越える感染症 赤十字の視点と経験」をメインテーマとし、現下の新型コロナウイルス感染症に対する予防対策および啓発活動を十分に踏まえつつ国際事業を実施する予定です。

詳しくはこちらの特設サイトをご覧ください。

⇒<http://campaign.jrc.or.jp/kaigai/>

皆さまの温かいご協力、よろしくお願いいたします！

医師・看護師等の救護班が被災地で活動するための活動資金も併せて募集しています。

<https://www.hyogo.jrc.or.jp/donate/>



◎問い合わせ

TEL 078-241-8921

赤十字 兵庫 検索



日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

ご寄付を頂きました

前川建設株式会社（代表取締役社長 前川容洋）様から当機構へ50万円のご寄付を頂きました。

心より感謝申し上げますとともに、ご提供いただきました資金は、県要請に基づくテーマについて当機構が行う研究のため有効に活用させていただきます。



「HAT減災サマーフェス2020 Online」を開催しました

人と防災未来センターでは、ライトアップを活用して地元HATの街のにぎわいづくりと住民の皆さんの交流を目的として、平成28(2016)年度から毎年8月に「HAT減災サマーフェス」を開催してきました。

例年は、地元住民や渚中学校の防災ジュニアリーダーの皆さんにお手伝いいただきながら、屋外ひろばに楽しく遊べる体験ブースなどを設置し実施していましたが、今年は新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催となりました。

8月29日(土)15時30分から始まった第一部「@ホームな減災緑日!」では、パソコンやスマートフォンから誰でも参加できるペットボトルキャップを使ったゲームやHAT神戸にまつわるなぞなぞなどを実施し、17時から第二部「ひとぼうステージ」では、神戸市立渚中学校吹奏楽部の演奏の収録映像を配信したほか、神戸ゆかりのアーティスト(ムノーノモーゼス、宵待、みらん、タバティー田畑)による生ライブ&トークを行いました。

いつもとは違い自宅で参加できる企画としましたので、地元のHAT神戸以外の方々にもご家庭で楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

なお、渚中学校吹奏楽部の演奏を除き、当面の間、映像をYouTube(<https://youtu.be/JQRiVPpPGHE>)で配信します。当日見逃した方は是非ご覧ください。



第一部「@ホームな減災緑日!」



第二部「ひとぼうステージ」収録会場



第二部「ひとぼうステージ」トーク



第二部「ひとぼうステージ」ライブ(花火は合成による演出)



サマーフェスチラシ (第一部)



サマーフェスチラシ (第二部)

第24回減災報道研究会開催

人と防災未来センターでは、さる9月2日(水)に、報道関係者、自治体職員、研究者等34名の参加による第24回減災報道研究会を開催しました。

当センターでは、これまでから、災害時に連携すべき報道機関と行政機関が、互いに理解し、協力関係を構築しておくことを目的として、減災報道研究会を開催しており、昨年度までに23回を重ねたところです。

今回は、テーマを「行政と報道機関の相互理解」として、従来の講義形式ではなく、ワークショップ形式で開催しました。行政、マスコミ(TV、新聞)、研究者等がそれぞれのグループに分かれ、活発な意見交換が行われました。参加者からは、「机上でない生の考え方を聴くことができた」というワークショップへの賛同の感想があったほか、「行政と報道機関が必要と考えている情報と、市民が必要と考えている情報を比較する必要性を感じた」、「行政と報道機関のお互いの状況を理解し合うことが課題であったことを再認識した」などの感想がありました。

▼第24回減災報道研究会の実施風景



ワークショップによる意見交換



グループの意見発表



会場風景(ソーシャルディスタンスに配慮)



報告「災害時における報道機関の役割」

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

開館時間

9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)
※7月～9月は9時30分～18時(入館は17時まで)
※金曜、土曜は9時30分～19時(入館は18時まで)

入館料金

大人	大学生	高校生/小・中学生
600円(450円)	450円(350円)	無料

[障がい者]

大人	大学生	高校生/小・中学生
150円(100円)	100円(50円)	無料

[70歳以上の高齢者] 300円(200円)

※()は20人以上の団体料金

※毎月17日(休館日の場合は翌18日)は入館無料

休館日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月31日と1月1日
※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休
※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交通

鉄道 ・阪神電鉄「岩屋」駅、
「春日野道」駅から徒歩約10分
・JR「灘」駅南口から徒歩12分
・阪急電鉄「王子公園」駅
西口から徒歩約20分

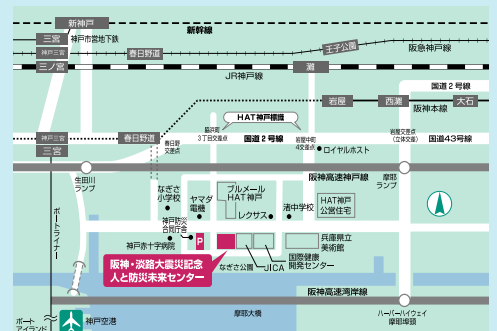
バス ・三宮駅から約15分

車 ・阪神高速道路神戸線
「生田川」ランプから約8分
・阪神高速道路神戸線
「摩耶」ランプから約4分
・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分

●有料駐車場あり ●バス待機所(予約制/無料)あり

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約/TEL 078-262-5050 <http://www.dri.ne.jp/>



新任研究員紹介

はじめまして。10月より人と防災未来センターの研究員に着任しました正井佐知と申します。阪神・淡路大震災を子どもの頃に経験し、神戸の町が復興していく様子を見てきました。これからは私も防災について学び、貢献できればと思っています。

3月まで所属していた大阪大学大学院人間科学研究科では、障がいのある人の社会参加について研究を行っていました。地域コミュニティへの参加、政治的参加などさまざまな社会参加の方法に着目し、周囲の人たちの協力が障害のある人の社会参加の程度にどのように影響を与えるかについて調査してきました。障がい者就労移行支援施設、救護施設、地域活動支援センター、障がいのある方々が参加する地域活動などに関わってきたので、特に社会福祉分野での防災に貢献できればと思っています。ご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願いいたします。



正井研究員

新任震災資料専門員紹介

皆さん、初めまして。10月より震災資料専門員として着任いたしました宮崎亮太と申します。私は阪神・淡路大震災の半年後に生まれました。実家は被害が大きかった神戸市兵庫区にあり、物心ついた時から被災して取り壊しになった家などの町並みを見て育ち、徐々に復興していく町の姿を見ながら成長しました。

出身大学は天理大学文学部歴史文化学科歴史学専攻です。北丹後地震を中心に歴史災害について研究していました。大学院は兵庫県立大学減災復興政策研究科に進学し、「地学」・「地理」に焦点を当てた高等学校における防災教育を中心に研究をしていました。

そもそも、私が災害に興味を持ったのは、2004年に発生した紀伊半島南東沖地震です。それまでほとんど地震を経験したことがなかった私は、夕方と夜遅くの2度の地震に大変驚き、恐怖を感じました。そのとき、なぜ地震がおきるのか、どう対策したらよいのかと考えたのが始まりでした。

日本は、阪神・淡路大震災、東日本大震災、平成30年7月豪雨など、多くの災害をこれまでに経験してきました。今後も南海トラフを震源とする地震やスーパー台風が発生すると考えられています。それらに備えるために、過去の災害から教訓を学ぶことが大切だと考えます。資料専門員として、数多くの資料を活用し、過去の災害や経験を引き継ぐことができるように、業務に邁進したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



宮崎資料専門員



Hem21NEWS
vol.84

令和2年11月発行

(公財) ひょうご震災記念21世紀研究機構

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)

<https://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580

FAX 078-262-5587

●研究戦略センター

▶研究調査部

TEL 078-262-5570

FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050

FAX 078-262-5055

▶学術交流部

TEL 078-262-5713

FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073

神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2

TEL 078-200-3010

FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください